

開催地名	大阪府 茨木市
開催日時	令和6年7月10日(水)13:30~15:00
開催場所	茨木市立彩都西中学校
語り部	石川 善憲(茨城県日立市)
参加者	茨木市民約140名(中学生及び地域住民)
開催経緯	本市では平成30年に大阪北部地震を経験したが、開催した彩都西地区では大きな被害はなく、災害に対する危機意識が低くなってしまい、防災訓練等への参加も減少傾向にある。実際に感じた災害の怖さや被災地での活動体験を聞くことにより、一人ひとりが防災に対する危機感を持ち地域防災力の向上につなげたいと考えたため。
内容	■ はじめに 講演者の石川善憲氏は、長年にわたり茨木市で防災活動に携わり、特に地域における防災教育や避難所運営の支援に尽力してきた。今回の講演では、東日本大震災の経験をもとに、大規模災害時の避難所生活の課題と、それに対する中学生をはじめとした若い世代の役割について語られた。 石川氏は、「防災は知識として学ぶだけでなく、実際の災害時にどのように行動するかが重要である」と強調し、避難所でのリアルな経験を交えながら、参加者に防災意識を持つことの大切さを伝えた。 ■ あの日のこと 2011年3月11日、東日本大震災が発生した。当時、石川氏は日立市の中学校の校長を務めており、避難所運営に関わることとなった。 震災発生時の状況 地震発生時は、ちょうど帰りの会の時間帯であり、多くの生徒が校内にいた。揺れが収まると、教職員と生徒が協力しながら校庭に避難した。学校の耐震性には問題はなかったが、津波警報が発令されたため、高台への避難の必要性が検討された。 避難所の設置と運営 震災直後、多くの住民が中学校に避難し、避難所としての機能が求められた。円滑な受け入れを実現するために、まず駐車場の整理を行い、避難スペースを確保した。続いて、トイレや食事の手配を行い、避難所の環境整備を迅速に進めた。 中学生の活躍 避難所の運営には、中学生が大きく貢献した。避難者の誘導、炊き出しの手伝い、物資の整理などを率先して行い、避難所生活の支えとなった。また、校内に設置された連絡掲示板の管理を担当し、家族の安否確認をサポートした。さらに、給水所の運営やトイレの清掃を自主的に行い、生活環境の維持にも尽力した。 ■ その後のこと 震災後、避難所の運営においてさまざまな課題が浮かび上がった。 物資の管理と供給 食料や飲料水が不足し、近隣のスーパーや企業と協力して調達を行った。公平に物資を分配するための仕組みを整え、避難者全員が必要な支援を受けられるよう努めた。 衛生環境の維持 トイレの不足と衛生管理の問題が深刻化したため、仮設トイレの手配を急いだ。また、避難者同士が交代で清掃を行い、感染症の発生を防ぐための対策を講じた。 避難所運営の改善 住民が主体となる「避難所運営委員会」を立ち上げ、役割分担を決定した。特に、女性や高齢者の視点を取り入れた環境改善を進め、避難所がより快適な場所となるようにした。 心理的なケア 避難生活が長期化するにつれ、住民のストレスが増大し、トラブルも発生した。そこで、心理カウンセラーやボランティアの協力を得て、心のケアの体制を整えた。

■ まとめ

石川氏は、震災の経験を通じて学んだ教訓を基に、今後の防災対策として以下の点を強調した。

1. 早期避難の意識を持つ

「避難指示を待つのではなく、自主的に判断し早めに行動する」ことが重要である。特に津波のリスクがある地域では、地震発生後すぐに高台へ避難することが求められる。

2. 地域防災の強化

住民同士が助け合う「共助」の意識を高めることが不可欠である。自主防災組織の活動を強化し、定期的な防災訓練を実施することで、実際の災害時に迅速に対応できるよう備える。

3. 若い世代の防災参加を促す

中学生や高校生が避難所運営に関わることで、実際の災害時に役立つスキルを身につけることができる。地域の防災教育を充実させ、次世代に防災意識を継承することが重要である。

4. 避難所の環境整備

避難生活が長期化する可能性を考慮し、快適な環境を整えることが求められる。トイレや備蓄品の充実を図り、特に女性や高齢者に配慮した運営を行うことが必要である。

5. 情報収集と伝達の強化

最新の気象情報や避難情報を常に確認し、迅速な対応を可能にすることが求められる。スマートフォンアプリや防災無線を活用し、住民への情報伝達を強化することで、避難の遅れを防ぐことができる。

最後に、石川氏は「防災は特別なことではなく、日常生活の中で意識し続けることが大切である」と述べ、防災意識を持ち続けることの重要性を改めて強調した。



開催地より

避難所運営は大人が中心となっていくものだと思っていたが、中学生が率先して行っていた。そしてそれが非常に力になったとお聞きした。
若年層への防災教育が大切であることを再認識することができた。